

3月の衛研検査情報

～トピックス～

食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成29年8月～平成30年1月に食品専門監視班が購入および収去した食品の検査結果を報告します。

主な結果 9月にインターネットを通じて購入した、牛の筋肉、豚の筋肉、七面鳥の筋肉各1検体およびその他の家禽の筋肉7検体（ウズラ1検体、カモ、ダチョウ、ハト各2検体）の計10検体について検査を行いました。また、市内を流通している食品について、8月に蜂蜜3検体、1月に鶏の筋肉6検体、牛乳4検体、鶏卵6検体の検査を行いました。その結果、いずれも全ての項目で不検出でした。

残留農薬検査（その4）

食品中に残留する農薬などが、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬などについて残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物などに残留する農薬の検査を行っています。今回は、平成29年11月下旬～平成30年2月に食品専門監視班、各区福祉保健センターが収去した農産物の検査結果を報告します。

主な結果 市内産の農産物33検体（11月：だいこんの根（4検体）、キャベツ、にんじん（各3検体）、かき、キウイー、さといも、ほうれんそう、みかん（各1検体）、12月：はくさい（3検体）、キャベツ、にんじん（各2検体）、さつまいも、さといも、ブロッコリー（各1検体）、2月：さといも（2検体）、キャベツ、さつまいも、だいこんの根、にんじん、ぶんたん、ほうれんそう（各1検体））について検査を行ったところ、だいこんの根からテフルトリンおよびトルフェンピラドがそれぞれ0.01ppm、ブロッコリーからアゾキシストロピンが0.02ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。また、国内産の農産物2検体（2月：じゃがいも、だいこんの根）について検査を行ったところ、農薬が検出されたものはありませんでした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成30年2月は、インフルエンザ流行情報、大麻（マリファナ）、クロストリジウム-ディフィシル感染症に関するページのアクセスが多くみられました。総件数は189,601件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。